

第3回 沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

バスレーンの延長について

令和7年7月16日
沖縄県企画部交通政策課

1 沖縄県地域公共交通計画との関係

沖縄振興特別措置法

新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（令和4年5月策定）

- ・沖縄振興策の推進、日本経済発展への貢献、海洋島しょ圏の特性をいかした海洋立国への貢献
- ・沖縄振興分野を包含する総合的な基本計画であり、沖縄振興特別措置法の沖縄振興計画としての性格
- ・計画期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間



沖縄県総合交通体系基本計画（令和4年10月策定）

- ・「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」の実現に寄与し、交通分野に関する基本政策の具体的な構想を示した計画
- ・沖縄の総合交通体系のビジョンとして、今後各方面で交通施策を推進する際の指針
- ・計画期間は、令和4年度から令和23年度までの20年間
- ・「計画の役割」において、「具体的な陸上交通の内容については沖縄本島地域公共交通計画（仮称）等で取り扱う」と記載



連携

地域交通法

沖縄県地域公共交通計画（令和6年5月策定）

- ・本県が抱える課題への対応や将来ビジョンの実現に向けた、これからの公共交通を構築するための指針
- ・地域交通法に基づいた、沖縄本島の陸上交通における幹線的な公共交通を対象とした地域公共交通計画
- ・具体的な施策・事業まで示すもので、その計画期間は令和6年度から令和10年度までの5年間



連携

地域公共交通総合連携計画（令和4年3月改定）

- ・中南部都市圏における国道58号を中心とした地域について、基幹バスシステムの導入を推進するための、基本方針、目標、事業等を定めた実施計画



連携

本島内市町村地域公共交通計画

- ・各市町村等において、持続可能な地域旅客輸送サービスの提供を目的とした、法に基づく地域公共交通計画
- 策定済：名護市、豊見城市、北谷町、北中城村（那覇市、沖縄市、糸満市、南城市は網形成計画）
策定予定：那覇市、浦添市、うるま市、糸満市、宜野湾市、嘉手納町、中城村
（何れも令和5年11月時点）



連携

2 バスレーンの延長について

(1) バスレーン延長に関する取組経緯

- バスレーン延長WTを活用した関係機関との情報共有等を通して、バスレーン延長等に向けた取組を進めてきたが、これまで“周辺を含めた道路交通への影響が大きい”、“規制は県民へ負担であり、バスレーン規制は最小限が望ましい”との意見があったところ。
- R5協議会では“基幹バスシステムは、バスレーンの整備といったバスの定時速達性の確保につながる施策との一体的な展開が必要であるため、実際にバスレーンを運用してみる社会実験などを行いながら検証を進めることも検討してみてもどうか”との意見があったところ。このため、R6年度はバスの定時速達性の確保に向け、バスレーン導入に資する協力ベースの実証実験等に関する検討を行った。

協力ベースの実証実験等に関する検討の流れ

① バスレーン延長による影響・評価等の再確認

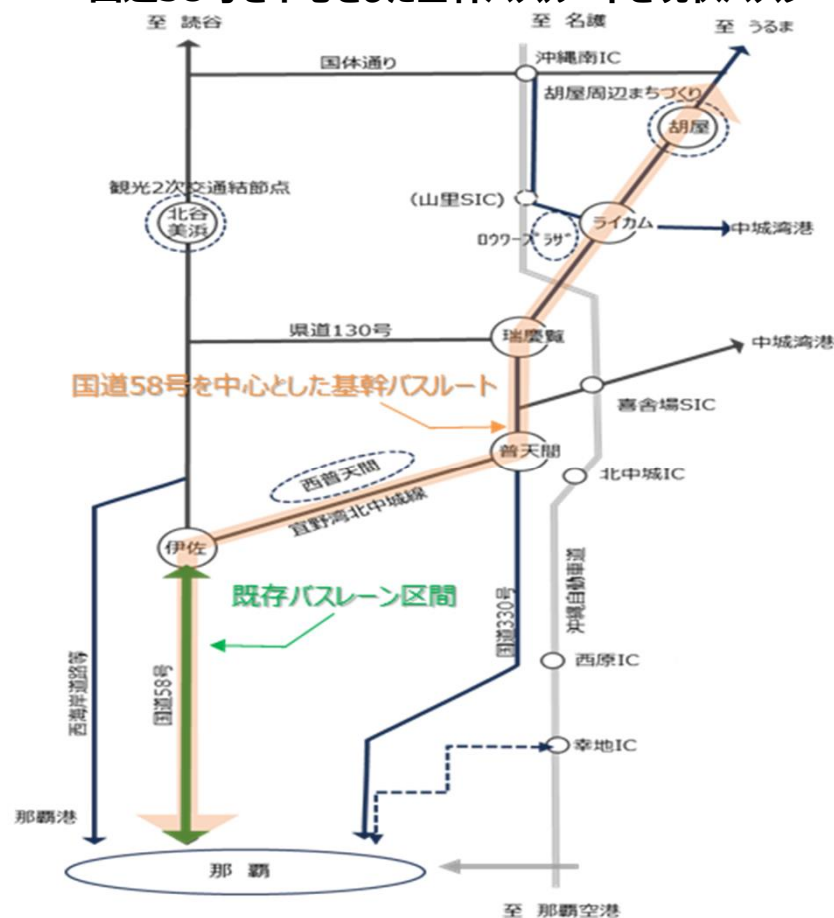
② 協力ベースの交通対策等の事例整理

③ 周辺まちづくり・交通施策動向や交通状況
(西普天間、ロウワープラザ、胡屋、北谷等)

④ 協力ベースの実証実験等に対するドライバーの協力意向 (WEBアンケート等)

⑤ 実証実験の候補路線・区間 (たたき台イメージ)

国道58号を中心とした基幹バスルートと現状バスレーン



➤ 協力ベースの一定区間における実証実験等については、環境レーンやTOKYO2020大会時のORN（オリンピックレーン）等がある。他、金沢市では、バス専用レーンの強化のため、都心軸における日中のバス優先レーン社会実験を実施

令和6年10,11月の2カ月間（昨年度は令和5年11月の1カ月間）

【広報・PR】

予告・実施看板の設置、チラシ配布（沿線施設、運送事業者）、新聞、市HP、テレビ広報、
日本道路交通情報センターのラジオ放送、当課所管のX、バスマスク、
職員・交通事業者等の立哨・巡回 など

【企業への協力依頼】

バス協会、トラック協会、レンタカー協会、運送事業者、都心軸周辺の商業施設等



【バスマスク】



【職員・交通事業者の立哨】

(下り)

社会実検中

●月●日まで(平日のみ)

**バス・タクシーがきたら
第2車線へ！**

7:30~ 9:00	専用
9:00~ 17:00	優先
社会実検	
17:00~ 19:00	専用

矢野いずみせ 21号
 関川大橋北詰 TOL 976-299-2008

(上り)

社会実検中

●月●日まで(平日のみ)

**バス・タクシーがきたら
第2車線へ！**

7:30~ 9:00	専用
9:00~ 17:00	優先
社会実検	
17:00~ 19:00	専用

矢野いずみせ 22号
 武蔵 TOL 976-299-2008

周知看板(イメージ)

2 バスレーンの延長について

(3) 協力型バスレーン実証実験の考え方（案）

協力型バスレーン実証実験のねらい

- ① クルマから人・公共交通中心の交通まちづくりの取組を推進することは、国内外は勿論、本県においても上位関連計画等で掲げられつつあり、バスレーン延長は交通まちづくりを先導する基幹バスシステムの早期実現に向け重要な施策
- ② しかしながら、R5年PT調査結果でも、クルマ利用は前回調査よりさらに高まり、このままでは持続可能な街づくり、県民生活の維持確保が将来に向け益々困難となる恐れ
- ③ さらに近年のバス事業者のリソース不足への対応には、バス網効率化を進め、限られた資源を効率的に活用することが重要となるが、そのためにもバスの定時性・走行性の向上は重要な要素
- ④ このため、バスタ事業など地域における拠点づくりや交通結節点の取組と連携が図られた、基幹バスシステムの早期実現が重要であり、これに資する協力型バスレーン実証実験の実施を通して、バスの定時性・走行性を高める環境づくりを着実に進める

協力型バスレーン実証実験の方向性

- ① 協力型バスレーンの効果を高めるとともに、一方でその影響を軽減させることが重要となる。このため、協力型バスレーン導入路線等の道路交通量の平準化や低減に向け、沖縄自動車道の有効活用に向けた各種事業との連携や企業・業界団体等との一体的なTDM等の取組を進める。
- ② 実証実験を進める上では、マイカー通勤者に事前のバスレーン必要性等に関する情報を丁寧に周知することで一定の理解が得られる可能性も伺えることから、今後は広く県民に実証実験等の理解と協力を得ていくことが重要となる。このため、実証実験前段階からの継続的な各種広報・周知手法等について検討を進める。
- ③ 実証実験による早期効果を導くことも重要であるが、これを継続することで協力型バスレーンの周知、理解と協力を高めていくことも重要である。このため、本実験を継続的に取組むことで、その先の持続的なバスレーン導入に繋げる。
- ④ 実証実験の対象路線は、基幹バスシステム等の計画内容、沿線街づくりや関連事業の取組動向、道路交通の現状、さらには道路空間の有効活用や先々の公共交通体系への展開性等を踏まえ、いくつかの候補路線・区間を整理した上で、関係機関や協議会等での議論を進め選定していく。
- ⑤ なお、実証実験実施のタイミングは、道路交通の平準化も重要となることから、沖縄自動車道の有効活用に向けた各種事業やその他取組動向を見据えていく。また、それに併せた具体実施内容についても検討していく。

2 バスレーンの延長について

(4) 協力型バスレーン実証実験の候補路線・区間（たたき台）

候補1：伊佐～胡屋

- ・ 活性協の基幹バスシステム取組区間と合致
- ・ 胡屋周辺まちづくり等沿線開発計画との連携
- ・ 都市圏南北の主要交通軸に沿う
- ✓ 西普天間開発に伴う影響の注視
- ✓ 道路空間4車線による一般自動車交通への影響（特に石平～普天間）
- ✓ 沖縄自動車道に近く、その有効活用策との連携が特に重要

候補2：伊佐～北谷

- ・ 北谷観光二次交通結節点機能との連携
- ・ 国道58号は6車線のため、候補1より道路交通容量は相対的に大きい
- ・ 沖縄県総合交通体系基本計画や沖縄県地域公共交通計画において、基幹バスシステム等（中長期計画）の位置づけ
- ✓ 活性協の基幹バス取組区間とは異なる
- ✓ 国道58号混雑区間の交通量低減策が重要

候補3：浦添拡幅区間

- ・ 浦添拡幅による8車線化供用開始が数年後のタイミング
- ・ 8車線化を契機に、連携計画でも検討課題とされている終日バスレーン化或いは日中協力型バスレーン化を目指す
- ・ 南北都市軸上で公共交通空間への転換と創出は、将来的な強力な公共交通体系構築の先鞭（土台づくり）
- ・ 日中の展開は、路線バスのオフピーク時利用促進等に繋がることも期待（オフピーク時の効果・課題検証も可能）

※現段階での候補路線・区間（たたき台）であり、実証実験については区間単独や複数区間の併用等を排除するものではない

協力型バスレーン実証実験の候補路線（たたき台）



2 バスレーンの延長について

(5)実証実験の展開イメージ（たたき台イメージ）

